

3. フリー株式会社 freee支出管理 小口現金

フリー(株) freee支出管理 小口現金

企業名	フリー株式会社
機器・サービス名	freee支出管理 小口現金
問合せ先	freee 合理的配慮お問い合わせ窓口 (メールアドレス disability-support/atmark/freee.co.jp) (注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記しています。
機器・サービスの概要	本サービスは、従来は紙で運用されていた小口現金出納帳をデジタルで一元管理し、リアルタイムで確認することを可能にしました。小口現金で支払いをした領収証をアップロードするだけでfreee会計の取引データに自動連携され、管理コストが軽減されます。
機器・サービスの特徴	1. 機器・サービスの機能 - スマートフォン・タブレットで、領収書やレシートを写真撮影・電子保管が可能です。 - 電子化した領収書をAIが読み取り、自動的に仕訳と小口現金出納帳を作成します。 - 店舗や支店の従業員が撮影した領収書から、自動的にfreee会計に取引を連携できるため、本社へ書類を郵送が不要になります。 - 小口現金の実残高・帳簿残高をリアルタイムで確認できるため、店舗や支店からの書類郵送を待たずとも、本社からの残高チェックがいつでも可能です。 2. 情報アクセシビリティの配慮内容 - PC・スマートフォン・タブレットのアクセシビリティ機能を活かせるよう設計・実装し、スクリーンリーダーにも対応しているため、様々な環境下で利用できます。 - 運動障害や視覚障害などで据え置き型のスキャナの利用が困難な場合でも、スマートフォンやタブレットのアクセシビリティ機能を活かしてレシート等の読み取りが可能です。 - 高齢者・障害者が作業する際、紙中心の作業からデジタル化＋アクセシビリティ機能の活用に移行することで、証憑確認や内容転記の負担が大幅に削減されると想定します。

フリー(株) freee支出管理 小口現金

free 支出管理 | 小口現金

goma NanaFurusawa

五反田店

2024年12月

残高が一致しています

帳簿残高 32,260円

現金残高 32,260円

利用日	入金	出金	帳簿残高	現金残高	勘定科目	添付	取引先	備考
12/2	50,000	0	48,630	48,630	雑収入			
12/7	0	1,370	47,260	47,260	原材料			
12/11	0	5,600	41,660	41,660	水道光熱費			
12/18	0	9,400	32,260	32,260	原材料			
総計	50,000	16,370						

50件 1 - 4 / 4

free 支出管理 | 小口現金

五反田店

2024年12月

残高が一致しています

帳簿残高 32,260円

現金残高 32,260円

利用日	入金	出金	帳簿残高	現金残高	勘定科目
12/2	50,000	0	48,630	48,630	雑収入
12/7	0	1,370	47,260	47,260	原材料
12/11	0	5,600	41,660	41,660	水道光熱費
12/18	0	9,400	32,260	32,260	原材料
総計	50,000	16,370			

50件 1 - 4 / 4



小口現金出納帳の画面と実際にサービス上でレシートを撮影する際の画面です。

フリー(株) freee支出管理 小口現金

当事者ニーズを 踏まえた開発

- 視覚障害当事者かつアクセシビリティ専門家のメンバーと共に、WCAGベースのアクセシビリティガイドラインおよびチェックリストを開発・運用
- 当該ガイドラインおよびチェックリストに則り、製品開発チームごとにチェックを実施
- そのチェック結果の妥当性を前述の専門家とともに週次レビュー
- 全盲の障害当事者によるスクリーンリーダーチェックおよび改善点の起票を実施
- freee社内でfreee製品を実際に使用。freee社内には障害当事者が複数名在籍しており、社内ユーザーからのフィードバックにより製品改善に取り組んでいる
- 障害当事者による利用事例の積極的な把握を行い、同時に事例記事化してウェブで公開

企業としての 組織的な取組

- アクセシビリティ専任メンバーの存在
- 全社員向けに、入社時にアクセシビリティオンボーディングを実施
- アクセシビリティを考慮したデザイン・実装コンポーネントの作成
- アクセシビリティガイドライン・チェックリストの制定と公開
- ガイドライン・チェックリストの全プロダクトでの運用
- 合理的配慮の対応方針および問い合わせ窓口の設置

参考：[アクセシビリティ | freee](#)

1 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- ・ 小口現金サービスといった小規模の会社にとって重要な経理のアクセシビリティを確保する考えは、障害者や高齢者の就労を考える上で重要である。
- ・ これまで紙により行うことが多かった小口現金に関する事務手続きが、このシステムを利用することで、視覚障害者も取り扱えるようになることは非常に期待できる。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 転記作業等の業務上の障壁を除去し、認知的負担が少なく容易に使える設計にするなど、アクセシビリティを確保している。
- ・ 証憑をスマホ、タブレットで撮影して読み取れるため、高齢者や障害者も作業が容易にできる。

2 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- ・ 転記作業等で業務上の障壁になっている事実に着目し、当事者のニーズを踏まえて実用に耐えうるものとして開発している。
- ・ 障害のある社員(アクセシビリティの専門家)の意見を反映し、また、システムの開発・更新にも参加して取り組んでいる。
- ・ WCAGベースの自社アクセシビリティガイドラインを使用し、全盲当事者による検証をもとに改善をしている。

3 企業としての取組について、優れている点

- 企業全体としてアクセシビリティ対応を徹底して製品開発する姿勢を有している。
 - ✓ WCAGベースのガイドライン・チェックリストを設け、公開。
 - ✓ アクセシビリティ問題が発生しにくいパーツを開発して、それを組み合わせて製品化することでアクセシビリティ問題を抑制する開発戦略をとっている。
 - ✓ 社内チェックリストの作成や、全職種の全メンバーを対象とした社員全員に対するアクセシビリティ研修を実施。
 - ✓ 合理的配慮の問い合わせ窓口および様々な部署で構成された合理的配慮委員会を設けて、個別の対応について議論する場を用意。また、これにより、いわゆる特定の部署への依存状態を作らず、会社全体であらゆる段階から取り組んでいくプロジェクト的な体制の整備につながっている。

4 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- ・ 障害者や高齢者が現場でこのシステムを利用する際の具体的な配慮が明らかになることを期待する。
- ・ 障壁の除去により、障害者の業務に与える副次的効果が明らかになることを期待する。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- ・ 操作に熟練した専門家だけでなく、初心者障害のあるユーザーなども含めたテストを期待する。
- ・ 貴社の製品ごとに、VoiceOver、NVDA、Talkbackへの対応が異なっているが、一貫性確保を期待する。
- ・ システムの評価について、視覚障害者向けのビジネス技能訓練施設と連携することを期待する。
- ・ 証憑をスマホ、タブレットで撮影する手法は様々なところで取り入れられているので、さらにアクセシビリティに配慮した改善を期待する。